



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2011.11 月号

冬期特別展

星々のみちびき ～大雄山参道二十八宿灯～

会期:11月19日(土)～1月15日(日) 平塚市博物館特別展示室(入場無料)



平塚市民にもなじみの深い大雄山最乗寺は、南足柄市にある曹洞宗の巨刹です。広大な杉林を縫う参道には、時折古びた石の道標(丁目石)が建ち、人や車の往来を見送っています。表面に一丁目から二十八丁目までを記して、人々に道程を知らせているのですが、道標はだいぶ古くて、あるものは苔の緑に覆われています。きっと、ほとんどの人が見過ごしてしまうに違いありません。

これらには、〇丁目と記したその上にもう一文字、「角」「亢」「胃」「参」などと漢字が冠されていますが、面白いことに、その文字は、日本や中国で用いていた古い星座(星宿)名なのです。道標が燈籠の機能を持つことから「星宿燈」の名でかつては呼ばれていました。

それにしても、いったいだれが、どうして参道の丁目に星を用いることを思いついたのでしょう。

江戸時代、そして遊郭新吉原の明治、珍しい星宿燈を建てた人々と、それに導かれこの道をたどった人々の姿を追います。

冬期特別展

星々のみちびき—大雄山参道二十八宿灯

◆最乗寺は、足柄の広大な杉林の奥に三十余の堂宇と専門僧堂（修行道場）を備え、全国に4千あまりの門流を有する大寺院です。室町時代の応永元年（1394）、了庵慧明禅師を開基としますが、禅師の弟子であった修験者道了をもまつり、「道了尊」の名でもよく知られています。道了の伝説にちなんで天狗が寺のシンボルになっており、境内には奉納品の巨大な天狗の下駄があります。

◆星宿燈は、元治元年（1864）と、明治40年（1907）の二次にわたり二十八基が建てられました。その後歳を経るうちに破損等で数が減り、平成2年に、失われていた2宿分が補われ42基が現存しています。

◆星宿燈に用いられた星座は、中国や日本で近代以前に用いられていた伝統的星座で「二十八宿」といいます。西洋式でいえば黄道十二宮にあたるもので、太陽や月、惑星はこの中を運行していました。二十八宿は、日月惑星の行く、星空の中の道だったわけです。

◆この特別展では、明治大正期の最乗寺の絵図や古写真、平塚の道了講活動を示す資料、そして星の信仰を表わす曼荼羅や、神社の星祭史料、さらに江戸時代の星座を示す資料として江戸時代の天文学者渋川春海の星図「天文成象」等、貴重な資料の数々を展示します。

＊＊関連行事＊＊

●記念講演会：12月17日（土）13:00～15:00（参加自由）

西海賢二氏（東京家政学院大学教授）「平塚の大雄山信仰をめぐる（仮題）」

●現地見学会「大雄山の星宿灯を歩く会」：12月11日（日）10:00～15:30

大雄山駅に集合し、二十八宿の星宿等をたどりながら最乗寺までの道を、いつもはプラネタリウムでおなじみの天文担当学芸員がご案内します。

申込み：往復はがきでお申込み下さい（11月30日締切）

参加費：無料（交通費実費）

●担当学芸員のギャラリートーク：11月26日（土）、12月4日（日）、1月8日（日）15:30～（約1時間）

担当：学芸員 澤村泰彦（参加自由）



結界門の天狗像



道了をまつる御真殿（妙覚宝殿）

プラネタリウム新番組

フリートーク・プラネタリウム★

2011年11月12日（土）～11月27日（日）の土・日曜日

①午前11時～ ②午後2時～

今年も「当館定番のフリートーク・プラネタリウム」の季節（？）がやってきました！

どんな話が聞けるかは、来てみて、始まってからの楽しみ☆ もしかしたら、「こんな話が聞きたい!」「あの星座が見たい!」と言ったリクエストにも答えてくれるかもしれませんよ？ 三人の天文担当学芸員、鷹、澤村、塚田がそれぞれの持ち味（？）を活かして投影します。同じ学芸員でも、日によって、同じ日でも午前11時の回と午後2時の回で内容が異なるかもしれません。

星座の話あり、壮大な宇宙の話あり、笑い涙あり（？）のフリートーク・プラネタリウム。どんな話題が飛び出すのか、ご期待下さい！

当館の天文担当学芸員

左から鷹 宏道 館長、澤村 泰彦 学芸員、塚田 健 学芸員。

どの学芸員の解説が聞けるかは、来てみてのお楽しみ！



平塚の地盤と活断層

期間：10月29日(土)～11月29日(火)

3月11日の東日本大震災は記憶に新しいことでしょう。相模平野地域でも、平塚市域では岡崎の用水路(上ノ入川)沿いや真田地区の大根川沿いで、秦野市域では大根川沿いのおおね公園や南鶴巻周辺で、茅ヶ崎市域では駒寄川沿いのみずき地区で、地盤が沈下したり、液状化により砂が吹き上がったり、ブロック塀が倒壊したり、瓦が落下したり、電柱が傾いたりしました。被害が大きかったこれらの地区はいずれも台地を刻む小河川の谷戸で、かつて水田地帯であったところで、厚い軟弱地盤からなっている地域でした。このほかの地区でも、ブロック塀が倒壊したり、地割れが走ったり、建物に亀裂が入った箇所が、かなりあります。

地震後、博物館には、市民の皆様から地盤についての問い合わせが多数寄せられています。そこで、今回の寄贈品コーナーでは「平塚の地盤と活断層」をテーマに取り上げました。

平塚市域の地盤は、海に堆積した砂からなる地盤、相模川や金目川が氾濫して堆積した主に泥からなる地盤、丘陵を作る赤土からなる地盤に、大きく分けられます。地盤は地下を掘らないと見ることはできませんが、地表の凹凸した微地形から、推定することができます。今回の展示では、地形と地盤との関係、平野の地盤—特に液状化や軟弱地盤について、丘陵に走る活断層について取り上げます。特に「平塚周辺の地盤図」を展示しますので、自分の家の地盤が、かつての海岸に堆積した水はけの良い砂地盤なのか、川が氾濫したときの湿地なのか、昔の川の跡なのかなどを確認していただけたらと思います。地盤として良好な丘陵地には、活断層が走っています。



用水路の亀裂



地盤沈下とコンクリートの破壊

活断層は今後、いつ動くのかがほとんどわかっていません。過去の断層の履歴や活動間隔を調べる必要があります。

私たちの住む神奈川県は相模湾を走るプレート境界の北側に位置しており、地殻変動の激しい場所ですから、地震による変動と向かい合っていかなければなりません。この機会に私たちの住む平塚の地盤について、見直していただけたらと思います。

また、市民の津波に対しての関心も非常に高くなっています。甚大な被害を出した東北地方の今回の津波は、内陸5～6kmに達しました。平塚でいえば豊田～四之宮まで達したことになります。東北地方はプレート境界から離れていて地震時に沈降するのに対し、南関東はプレート境界に近くて、地震時に隆起する地域です。したがって、仙台平野は非常に勾配の緩い三角州が発達するのに対して、相模平野は相模川が下流まで礫を運び、広い砂州砂丘地帯が発達しているという違いがあります。ですから、たとえ同じ規模の津波が来たとしても、同様のことは平塚では起こりえないことです。しかし、相模川や金目川の河口沿いの低地では十分な注意が必要であることはいうまでもありません。

この展示の関連行事として、下記のように平塚の地盤についての講演会を行います。参加自由ですのでご参加ください。

講演会「地震と平塚の地盤—軟弱地盤と活断層—」

日時：11月27日(日) 14時～16時

場所：博物館講堂 参加：自由

11月

1	火	平塚地質調査会	工作室
3	木	祝日開館	
4	金	古文書講読会	講堂
	◎	星を見る会「木星を見よう」	科学教室・屋上
5	土	お囃子研究会	講堂
6	日	平塚の古代を学ぶ会	講堂
7	月	休館日	
10	木	石仏を調べる会	土屋
11	金	古文書講読会	講堂
		古代生活実験室	科学教室
12	土	星まつりを調べる会「特別展示制作」	特別研究室
	○	自然教室「里山の休耕田生きもの調べ3植物」	土屋
		相模川の生い立ちを探る会	鎌倉
13	日	◎ 平塚郷土史入門講座「近世金目川の治水と利水」	講堂
14	月	休館日	
16	水	裏打ちの会	科学教室
		民俗探訪会	鎌倉市
17	木	展示解説ボランティアの会	野外
18	金	古文書講読会	講堂
19	土	地域史研究ゼミ	特別研究室
		平塚の空襲と戦災を記録する会	特別研究室
		考古学入門講座「測る」2	講堂
20	日	水辺の楽校生きもの調べの会	野外
	◎	ろばたばなし	相模の家
21	月	休館日	
22	火	天体観察会	月光天文台
23	水	祝日開館	
		天体観察会	月光天文台
24	木	石仏を調べる会	特別研究室
25	金	古文書講読会	講堂
26	土	平塚の遺跡を歩く「高麗山城と住吉要害」	市内
		星まつりを調べる会「特別展示物解説」	特別研究室
	◎	平塚郷土史入門講座「須賀の水運とその繁栄」	講堂
27	日	◎ 講演会「地震と平塚の地盤-軟弱地盤と活断層-」	講堂
28	月	休館日	

プラネタリウム「見えない光で宇宙をさぐる」活断層」JAXAの天文観測衛星」

寄贈品コーナー「平塚の地盤と活断層」11月29日まで

冬期特別展「星々のみちびき〜大雄山参道二十八宿灯〜平成23年11月19日〜平成24年1月15日

フリートーク・プラネタリウム11月12日(土)〜11月27日(日)

☆: 展示・プラネタリウム ○: 申込制行事 ◎: 参加自由 無印: 年間会員制

展示とプラネタリウム

- <展示>
- ☆冬期特別展「星々のみちびき〜大雄山参道二十八宿灯〜」
※詳細は本紙1〜2頁参照。
 - ☆寄贈品コーナー「平塚の地盤と活断層」
※詳細は本紙3頁参照。
- <プラネタリウム>
- 観覧料: 200円 (18歳未満・65歳以上無料)
 - ☆プラネタリウム番組「見えない光で宇宙をさぐる-活躍するJAXAの天文観測衛星-」
投影日: 11月6日(日)までの土・日曜日
時間: (1) 午前11時 (2) 午後2時
 - ☆プラネタリウム番組「フリートーク・プラネタリウム」
※詳細は本紙2頁参照。
- <申込制の行事>
- ◎考古学入門講座「測る」2
日時: 11月20日(日) 午後2時〜午後3時30分
場所: 博物館講堂
定員: 30人
申込: 往復はがきに住所、氏名、電話番号を記入し、11月11日(金)までに申し込む。
 - 平塚の遺跡を歩く「高麗山城と住吉要害」
内容: 高麗山とその周辺の城館を訪ねます。
日時: 11月26日(土) 午前10時〜午後3時
場所: 高麗山・山下
定員: 25人
申込: 往復はがきに住所、氏名、電話番号を記入し、11月17日(木)までに申し込む。

12月

1	木	展示解説ボランティアの会	講堂
2	金	古文書講読会	講堂
3	土	◎ お囃子研究会	講堂
		星を見る会「金星を見つけよう」	科学教室・屋上
4	日	水辺の楽校生きもの調べの会	野外
		平塚の古代を学ぶ会	講堂
5	月	休館日	
6	火	◎ イブニングミュージアムウィーク「地震がもたらす活断層」	講堂
		平塚地質調査会	工作室
7	水	◎ イブニングミュージアムウィーク「星のふるまいを律する者」	講堂
8	木	◎ イブニングミュージアムウィーク「近世ひらつかの旅人」	講堂
		石仏を調べる会	特別研究室
9	金	◎ イブニングミュージアムウィーク「海岸の環境を生きものから考える」	講堂
		古文書講読会	講堂
10	土	◎ イブニングミュージアムウィーク「古代相模の旅人」	講堂
		古代生活実験室	科学教室
		天体観察会「学習会と観察会」	科学教室・屋上
	☆	プラネタリウムで見る「願いの星空」	プラネタリウム
11	日	◎ イブニングミュージアムウィーク「平塚の道標」	講堂
		相模川の生い立ちを探る会	科学教室
	○	体験学習「お飾りを作ろう」	講堂
		星まつりを調べる会「見学会」	野外
12	月	休館日	
15	木	展示解説ボランティアの会	特別研究室
16	金	古文書講読会	講堂
		地域史研究ゼミ	特別研究室
17	土	◎ 平塚の空襲と戦災を記録する会	特別研究室
		特別展記念講演会「平塚の大雄山信仰をめぐって」	講堂
18	日	◎ ろばたばなし	相模の家
19	月	休館日	
21	水	裏打ちの会	科学教室
		民俗探訪会	特別研究室
22	木	石仏を調べる会	特別研究室
23	金	祝日開館	
24	土	☆ プラネタリウム「聖なる夜の『銀河鉄道の夜』鑑賞と星宿灯の星空」	プラネタリウム
26	月	休館日	
29	木	年末年始休館日(〜2012年1月3日)	

冬期特別展「星々のみちびき〜大雄山参道二十八宿灯〜平成24年1月15日〜12月29日

寄贈品コーナー「平塚の地盤と活断層」11月29日まで

プラネタリウム「2012年の天文現象」12月3日〜平成24年1月29日

「THE EARTH」上野発刊12月9日〜6日

- 体験学習「お飾りをつくろう」
内容: お正月の玄関飾りや一文飾りをワラでつくります。
日時: 12月11日(日) 午後1時〜4時
場所: 博物館講堂
定員: 30名
申込: 往復はがきに住所、氏名、電話番号を記入し、11月30日(水)までに申し込む。
- <自由参加の行事>
- ◎ろばたばなし
内容: 民家のいろりばたで昔話を語ります。
日時: 11月20日(日) (1) 午後1時20分、(2) 午後3時
場所: 展示室1階「相模の家」
- ◎平塚郷土史入門講座「近世金目川の治水と利水」
日時: 11月13日(日) 午前10時〜11時30分
場所: 博物館講堂
- ◎平塚郷土史入門講座「須賀の水運とその繁栄」
日時: 11月27日(日) 午前10時〜11時30分
場所: 博物館講堂
- ◎講演会「地震と平塚の地盤-軟弱地盤と活断層-」
日時: 11月27日(日) 午前14時〜16時
場所: 博物館講堂

あなたと博物館 39巻8号 通算419号 発行 平塚市博物館 2000
〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949
E-Mail: info07@hirahaku.jp ホームページ http://www.hirahaku.jp/